音楽・人間関係

LI校　高等部二年一組

山口　浩

つい最近、趣味のエレキギターを弾いているときに気がついた現象がある。僕は、四年ぐらい前からエレキギターに夢中になり、近所の音楽教室に通ったり、勉強の合間にエレキギターやアコースティックギターの練習に励んだりしてきた。

一番初めに音楽好きの友達と地下室で音を合わせたとき、自分の担当の部分を間違えないよう、一生懸命練習して弾いていた。ただ、それぞれのパートの間違いはないのに、なぜかバラバラであった。言葉で伝えなければ、みんなが違うテンポで弾いていたり、適当に自分のところだけフォーカスして練習していた。なんとなくお客さんのような、よそよそしい感じであった。ただ、同じメンバーで最近、合わせてみて気が付いたことがあった。ある程度、技術を磨かないと、このことに気付くことはできなかっただろう。ある時、僕は、適当に即興の曲をベースで弾いていた。一言も言葉を交わさなかったのに、友達がその曲に合わせてリズミカルにドラムをたたき始めたのだ。

「これは何かの曲のカバーじゃないよ」

と口から出そうになったけど、彼をちらっと見たら、生き生きと嬉しそうにうなずいて僕を見ていた。バンドを組んでから二年半が経っていた。その時、僕が徐々に音量をあげて曲に勢いをつけたことに、ドラマーが気づいてくれたのだ。それから僕が次のパターンをリードしたとき、上手に音のニュアンスを合わせてくれた。毎日、何時間も一人で練習を重ねて、だいぶ弾けるようになっていたが、バンドで友達とうまく息があった時、一人で好きな曲をマスターした時とは違う達成感を感じた。言葉を使わずに、音と表情で友達と会話ができたからだ。

一人一人の集まりだった音が、全体でハーモニーになった時、以心伝心で友達と気持ちが通じたという手ごたえを感じる。ハーモニーの中にそれぞれの個性が表れて興味深い。

ドラマーの友だちは、絶対音感がある。嵐のように激しくは打たないけれど、周りの音の変化に注意を払い、それに対応する柔軟な性格が出ている。リードギターリストは電光石火のごとく、スピード感がある。ただ、多少、周りが見えなくなってしまうところがある。僕は、リズムギターやベースを弾きながら、おそらくバンド全体の構成を考えながら音を調整し、サポートに徹している。何度も失敗も重ねながら、友達が出しているほんの小さな表情のサインやシグナルも、次のアクションを予想することができるようになった。

音楽の本当の楽しさや充足感とは、音にそれぞれの個性を生かして、一つの曲を作り上げることだ。それは、つまり相手に共感し、お互いの個性を表現することなのだ。また、違う楽器の特徴を知り、そして弾いている一人一人の役割を知るということは大切なことだ。それができた時、自分の役割や音の特徴に気づかされるということなのだ。

私には私の道

LI校　高等部二年　一組

福田　徳道

「もう遊ぶのをやめなさい」、「だらしないなあ」、「ＳＡＴの勉強をしなさい」、「もう大学に入れないかもしれないよ」。毎日私が耳にする表現である。あまりに繰り返されて、もう暗記しているほどである。そしてこういったことを言われても、気に障るとか、腹が立つとか、がっかりするとか、悲しくなるとか、そういうことが全くなくなってしまった。情けないことである。

この夏、私は一体何を達成しただろう。アルバイトをしている友達もいる。大学受験に向けて、必死で勉強している友達もいる。旅行に精を出している友達もいる。友達同士集まって何やら大騒ぎしている友達もいる。私はと言えば・・・そう思うと、自分は何もしていないように思える。私だって、夏休み前には目標があった。例えば、パートでアルバイトして、職能経験を積もうと思っていた。ピアノの練習をしようと思っていた。それなのに、夏休みもあと一か月足らずになっている今、友達と何回か会った他は、夏休みの最初の三分の二をブランクのまま過ごしてしまったように思えてならない。

私は夏休み中にいくつか大学の見学ツアーに参加した。ツアー会場に早めに着いた時は、必ず緊張した。その理由は、きわめて単純である。ツアーガイドが発する時間潰しのための

「大学では、何を専攻する予定ですか。」

という質問が怖いのである。ツアーに参加した他の高校生達は、さっそうと自分の興味や将来について話していた。私はと言えば、しどろもどろに、

「まだ考えている最中です。」

と決まって答えた。時にはこの私の反応が面白かったと見えて、声高らかに笑われることもあった。この時ばかりは、マスクの存在が有難かった。大きいマスクで顔を覆い、焦りと恥ずかしさとで顔がほてって熱くなるのを感じた。じっとり　汗をかいた。自分には見えなかったが、きっと顔は真っ赤であったに違いない。「早くツアーが始まってほしい！」こういったことが頭をよぎる間もなく、ツアーガイドに、

「大丈夫だよ、まだ大学で何を専攻したいか分からなくても。」

と、これまた不思議にどこの大学でも同じ言葉をかけられた。何を学んだらいいか分からない自分を励ますかのように。

「この大学のこの学部は、徳道に合っているかもしれないね。」

という両親の言葉が、私の右往左往する心に突き刺さった。「放っておいて！」と言うのが、私の本音ではあったが、そんなことはツアー中には言えなかった。

私には、大学生の兄姉が三人いる。三人とも私にとっては、優等生。

「何で徳道は、〇〇みたいになれないの？」

と兄姉と比較される時が、一番辛い。悲しきや、最近では、活発かつ何でも興味津々、チャレンジ精神旺盛の妹とも比較されるようになってしまった。

自分が情けなくなったり、どうして自分が他人と比べられるのか不審に思ったり、思わず涙が止まらなくなってしまう夜もある。そんな時は、

「徳道は徳道だ。誰とも比べられない。私は私にしかできないことがある。」

と、一人で部屋でブランケットの下でつぶやく。とはいうものの、私はいつも比べられているばかりではない。

「徳道のその声、勿体ないよ。声楽の道に進めば？」

とか、

「徳道はみんなに優しいから、人に接する仕事が合っているかもしれないね。」

などと、励ましの言葉が降ってくることもあ

る。そういう時わたしは傘もささずに、誉め言葉に頭からざっぷりと濡れて、自分は何でもできるかもしれないという妄想に浸っている。

「私は私。未知数の部分はこれから発見していけばいい。」そう思って今を過ごしている。

地球温暖化の裏側

LI校　高等部一年一組

ベンソン　アレックス

世界には地球温暖化が嘘だという人たちがいる。地球温暖化は科学的な調査をもとに地球温暖化の原因とその影響はわかっているし、実際に解決へと取り組んでいる人たちも沢山いる。それなのになぜ地球温暖化を嘘だという人たちがいるのか。それを理解するにはまず地球温暖化の原因を理解する必要がある。

地球の大気圏は太陽から来た熱を逃がさない毛布のような役割を持っている。そして、人間が機械を使う時に発生する二酸化炭素は大気圏に入って地球を包む毛布になる。つまり、人間が機械を使えば使うほど地球は暖かくなるのだ。

そこで、この問題を解決しようとあまり二酸化炭素が発生しないような機械を作るような人たちが出てきた。太陽光発電、風力発電、そして電気自動車のような機械だ。このような物を作る人たちが出てくると、昔から機械を作って生きてきた人たちは自分たちの仕事がなくなるのではないかと恐れた。そして嘘をつき始めたのである。地球温暖化は嘘だと言えば二酸化炭素を沢山発生させる機械を買っても大丈夫だと思う人たちがいるため、仕事がなくなることはない。これが地球温暖化が嘘だと言われる理由だ。

これを最初に聞いたときに僕はとても驚いた。地球温暖化はとても単純な問題で、僕たちが二酸化炭素の発生を抑えることができれば解決できると思っていたからだ。しかし、実際にはかなり複雑な問題でそう簡単には解決されることはないと知った。これは世界中の問題にも当てはまるだろう。どの問題にも二面性、そして多面性がありそれを全て理解するには沢山の人々の視点からその問題を見なければならない。僕はどんな問題にも客観的な視点は必要不可欠なのだと気づいた。

地球温暖化のような大きな問題でも友達との喧嘩のような小さな問題でも、主観的な判断だけでは絶対に解決ができない。何事に対してもすぐに主観的な意見を持つのではなくて、一旦立ち止まって傍から眺めることが必要ではないだろうか。そうすることで今起こっている物事の本質を理解することができて、自信をもって行動に移すことができるだろう。そして、地球温暖化のような一見自分にとっては大きすぎる問題も自分なりの解決方法へと一歩踏み出すことができるだろう。

挑戦

LI校　中等部三年一組
杉本　真瑠

「この夏はミュージックキャンプに参加したらどう？」

私の学校のオーケストラの先生がみんなに言った。私はビオラを弾いているが、たいして興味はない。けれどピアノにはとても興味があった。アメリカに来てから習うのを辞めたピアノをまたはじめて少し前からレッスンも受けている。そういうこともあって先生が話をはじめたときにあるキャンプが目に留まった。それは他のキャンプと違って弦楽器だけではなくピアノでも参加できるようだ。あまりいろいろな事に挑戦しない私は今年は挑戦してみるか、と心を決めた。

そのキャンプは五日間のキャンプで最終日に発表会がある。ピアノトリオだったので私はピアノ、その他の二人はバイオリンとチェロという構成だ。キャンプが始まる一ヶ月前は各グループに分かれて練習をする。そこで私のグループのバイオリンとチェロを弾く子に会った。チェロを弾く子は私と同い年のライアン、バイオリンを弾く子は一つ年上のジム、先生はピアニスト若い男の人だった。

先生とグループの人たちと練習部屋に入るとそこにはグランドピアノがおいてあった。私がこのキャンプを楽しみにしていた理由はもう一つあってそれはグランドピアノが弾けるということだ。家ではアップライトピアノで練習しているのでグランドピアノを弾く機会は滅多に無い。いざ念願のピアノを弾いてみると思ったよりきれいに音がでて嬉しかった。でも家にあるピアノとはタッチが全然違うし、なんといってもピアノが動かせる台に乗っているので異様にペダルが高い。これは慣れるまで大変そうだ、と思った。

いざみんなと合わせて練習を始めると私だけいつもフレーズが終わったあとに先生からコメントがあった。ここはもっと左手を大きく鳴らす、ペダルをあまり使わないで、など。これは結構辛くて何しろ私はみんなのスピードについていくのがやっとだったからそれ以外のことに集中するとうまく弾けなくなる。それでもなんとか曲を終わらせるとかなりの達成感があった。他の楽器と合わせて弾くのはこんなにも楽しいんだ、と感動した。そのあとは休憩時間だ。外の広場のようなところにスナックや水がおいてあって、みんながあつまる。そこでジムとライアンと学校のことやキャンプのことについて話した。最後にプライベートレッスンがある。それはソロ演奏の発表会の練習をするためだ。レッスンは体育館みたいなところで行われて、すごく大きいグランドピアノがステージにおいてあった。私がソロ演奏をする予定の別れの曲をそのピアノで弾いた。すると今まで何十回も弾いた別れの曲がまるで違う曲のようにきこえた。ピアノが違うだけでこんなにも雰囲気が違う風にきこえるのだと感動した。早くも最に楽譜を渡されて練習をする。私は他の楽器と演奏するのは初めてなのでとても楽しみにしていた。送られた楽譜はクラシューマンの作曲したもので思ったよりページ数が多くて大変だったけどなんとかキャンプが始まる前に仕上げた。キャンプの前の一ヶ月間は今までで一番ピアノを練習したと思う。期間中に曲を仕上げるというのも新鮮な体験で緊張感があって良かった。

さてキャンプ初日、他の演奏者はどんな人だろう、うまく合わせられるかな、とそわそわしていた。キャンプまでは車で一時間かかるのだが、私は車に乗っている間テンションがあがってお母さんとずっと話していたので三十分ほどに感じた。

そのキャンプは教会で行われる。とてもきれいな教会で少し高くなったところにグランドピアノがおいてあった。そこはマスタークラスや最終日にある発表会に使われるところだ。最初に先生方の自己紹介があってその後

終日、発表会の日だ。その日に初めて教会にあるピアノを弾いた。今までで弾いたピアノの中で一番いい音がでて満足した。でもずっと心臓がバクバクいっていてとても緊張していた。発表会が始まる前にプログラムをみてみると私達のグループはかなり最後らへんだった。発表会がはじまり、他のグループの演奏をきいていると皆とても上手で私達もうまく弾けるか心配だった。いよいよ私たちの番になりステージに立つと不思議と心臓のバクバクがおさまって、弾き始めると今までで一番自由に上手く弾けた。結果、とてもいい演奏ができたのでとても満足している。この夏はとてもいい体験ができた。

女性のけんりと自由

LI校　初等部五年一組

井上　七緒海

私のお母さんはいつも学校に行ける事に感謝しなさいと言います。勉強ができて、好きな本を読んで、自分で好きなものを職業にするために勉強ができることがふつうと思わない方がいいよと言います。今でも沢山の女の子たちは学ぶことができないし、昔はほとんどの女性にはそういうことをする「けんり」がなかったんだよと。

どれも私にとっては当たり前のことで、なにも特別なことではないのに、とても不思議な気持ちになって、どういうことなのかよく分からなかったので、図書館や本屋さんに行って、色々な本を読んでみました。

そのうちの一冊がザ・メーキング・オブ・アメリカシリーズの「スーザン・B・アンソニー」本です。昔の（十八世紀の中ごろ）アメリカ人女性たちは、働いたお金はすべて夫にわたし、財産を持つことが許されず、りこんができなかったそうです。このような問題をひとつずつ解決するために、まず、スーザンは女性の投票権を持つための運動をします。スーザンはこの問題がすぐに解決しないことを知っていました。なので本の中で「私が死ぬまでに女性の投票権は持てないでしょう。でも、これは次の世代のための運動なのです」と言っています。一九二十年八月十八日に女性の投票権が始まりました。スーザンはもう死んでいましたが、スーザンたちが始めた運動によって、私たちも投票ができるようになったのです。

女性の投票権は私たちにとって、とても普通の事です。考えることでもなく、当たり前にあるものです。私がいま十八世紀の中ごろに行ったら、沢山の人が私のこの考えをクレイジーだと思うと思います。でも私からするとその時の方がクレイジーに思えます。そして、今でも地域によってはそのクレイジーな状況があるのです。それは私を本当に悲しい気持ちにさせます。

私たちが持っている自由。私は将来、学校の先生になりたいと思っています。大学に行くために、沢山勉強をしないといけないし、簡単ではないと思います。でも、頑張ればできるのです。頑張る場所がない、頑張ってもなれない、そういう不自由はないのです。この自由のために活動してくれた人たちのこと、私の将来は私の努力によって決められるという自由が当たり前ではなく特別なことなんだという事をしっかりと忘れずに日々を過ごしていきたいなと思います。

冷たいカレーライス

LI校初等部四年一組
槇原 海

去年コロナウイルスのせいでできなかった宿泊キャンプに今年の夏は参加することができました。アップステートのフロストバレーという山の中にあるキャンプ場です。自然の中木の緑と川や湖もあるす晴らしい所です。行くたびに、スリープアウトという特別な活動があります。それは、森の中でハイキングをして夜空の下で寝ることです。

まず、山の中の目的地を目指して、たんけんしながらハイキングしました。僕達は十人の男子グループです。森の中の上り坂を一時間ぐらい登った所でキャンプ場に着きました。僕のお兄さんのグループは、もっと遠い所の四時間もかかると言われるパビリオンと言う所に行きました。後で聞いたら、走って、世界記録の二時間でパビリオンに到着したそうです。すごいなあと思いました。

僕達は、ツリックルブルックと言う小川の横の目的地に着きました。まず、寝る場所を整えました。そして、夜ご飯のカレーライスを作る準備をしました。そして、グループの半分の五人で火をつけるために周りの林から枝や木を集めました。その間、他の人達はカレーに入れる野菜を切りました。

僕達のはんは、集めた枝をまきの下と上にいげた型に組み立てました。いげたにすると枝の間に酸素が入って、火が付きやすくなるからです。しかし、大変なことが起こりました。ライターで火をつけるのがなかなかうまくいかず、そのうち、ライターの液体ガスがなくなってしまったのです。大昔の人を思って、枝を手と手の間に持って、まきの上でぐるぐる早く回して、まさつで火を作ろうとしました。しかし、そんなことでは火はつきませんでした。昔の人はどうやって火をおこしたのでしょう。でも、僕達には最新技術があります。リーダーを走らせて取ってきてもら

えばいいのです。僕達のリーダーは走って山のふもとまで行って新しいライターをとってきました。

リーダーが現れた時には、僕達はもうおなかがペコペコでした。でも火は簡単につきました。そこで、なべでカレーを作るはんとはんごうでご飯を炊くはんで、どちらが早くできるかの競争です。僕は、ご飯はんでしたが、残念なことに、カレーはんが勝ちました。おいしそうなカレーができました。でも、ご飯はんのご飯はまだかたかったので カレーのなべだけ火からおろしました。

そこで、第二のチャレンジが起こりました。雷と大雨が急にやってきました。ひなんしなければいけません。でも、ぼくたちのカレーとご飯をおいていくわけにはいきません。なべとはんごうをもって、歩いて二十分位の天文台の建物にひなんしました。そこで雨が止むまで二時間も待ちました。残念だったのは、ご飯がかたくてまだできていなかったので、

食べられなかったことです。みんなおなかがすいて死にそうでした。

やっと、夜中の十一時ころに雨がやみました。友達のとしはる君は、となりで眠たそうにしていました。僕達みんなは、夜空の下、元のキャンプ場にもどりました。雨雲で真っ暗な夜です。ころばないように気を付けながら、ゆっくり進みました。ぼくは疲れていたので、石につまずいて、一度転びそうになりました。やっとキャンプ場について、たき火を見に行ったらびしょびしょでもう火はありませんでした。そこで、僕達は力レーライスを食べる事にしました。かたくて冷たかったけれど、おなかがすいていたので、特にカレーのところがおいしかったです。マシュマロで作るはずだったデザートのスモーズはあきらめなければなりませんでした。

でもよかったのは、その夜スモーズを作って食べる夢をみました。ぬれたたき火の下の灰の中から小さく赤く燃えた炭を見つけて、

真夜中にスモーズをこっそり作りました。ぼくはマシュマロの焼き方を完ぺきに実行しました。ぬらさないように、でもこがさないように、灰がついてしまわないように、気を付けながら、根気よくゴールデンブラウンになるまでこんがりと焼きます。マシュマロからスチームが出てきたらもう出来上がりです。熱いうちにグラハムクラッカーとチョコレートでサンドイッチにします。するとチョコレートがちょっととけて、おいしいのです。こんなおいしいスモーズを食べたのは初めてです。

スリーアウトで一番よかったのは、みんなでチャレンジを乗りこえたことです。たき火の火を起こしたり、カレーライスを作ったり、雪からにげたり、へんなスモーズの夢をみたりした事です。かたくて冷たいご飯でも、みんなで食べたからおいしかったのです。

20×20

5

ろなことをしてあきろくんをゲットしようという話をかきたいです。わたしはれんあいをしたことがないけどれんあいのことを考えるのが楽しいと思います。

わたしが絵をかくのが好きなりゆうはたぶんお母さんのいでんしがあたしの中にあるからだと思います。お母さんも小さいころから絵をかくのがすきでした。今もお母さんは絵をかくのが好きです。お母さんの絵を見ると、とてもきれいでびっくりします。わたしの今のもくひょうはお母さんみたいなじょうずなまん画をかくことです。けれどそれはとてもむずかしいと思います。

16×16

しょうらいのゆめ

江校初等部三年一組

藤本　真矢

わたしはしょうらいまん画家になりたいです。なぜかと言うとわたしは絵を書くのが大好きだからです。わたしはとくに少女まん画をかきたいです。でも少年まん画は書きたくないです。なぜならストーリーが思いつかないからです。

わたしはれんあいの話が好きです。たとえば、今考えている話がありします。しずくちゃんという女の子がおさななじみのあきろくんのことが好きだけどもうあきろくんにかのじょがいるので、しずくちゃんはいろいろ

16×16

洋楽と邦楽：音楽性の違い

W校　高等部一年一組

渡邉　慧

音楽はいつでも身の回りにあるものだ。人間がいるところには音楽が日常的に流れている。時の流れ、地域により、音楽は少しずつ変わってきた。今の音楽業界を見て、すぐにわかるのは、その広い音楽のジャンルとレパートリーである。そこで僕は、洋楽と邦楽を比較してみることにした。

まず「一番の違い」と聞かれた時、「言語」が一番先に思いつく。一番わかりやすい違いだ。使う言語が異なる。では、歌詞以外で言語によって生じる違いとはなんだろうか？正解は「メロディーのリズム」である。まずは、英語と日本語の根本的な違いから見ていきたい。日本語では一文字につき母音が一つあるため、一文字ずつ音節になっている。その上、音節は全て同じ長さで、きっちりしている。一方英語は、少しグルーブがついている。音節も

きっちりしてないところがあり、シンコペーションがある。この根本的な違いが、メロディーのリズムを変えている。だから洋楽ではシンコペーションが強いメロディーを使ったジャズやファンクが多いが、邦楽はきっちりしたメロディーを使ったデンパ曲やボカロ曲が多い。

次に、「メロディーの音程」と「コード」をみてみる。メロディーの音程とは音階とモードを元に作成され、曲のバックボーンとして働いている。モードは、それぞれ独特の色とムードを作ることができる。次にコード。コードとはいくつかの音程を同時に奏でる和音のこと。洋楽では４コードだけのシンプルなコード進行がよく使われているため、率直な感情が伝わる。洋楽の多くはトニックコードが使用されていて、聴くと安心するコードと言われている。このコードによって、洋楽はシンプル且つ安定した感じがするのだ。それに対し、邦楽では複雑なコード進行が使われることが多く、不完全感や「はちゃめちゃ感」を演出する。この理由の一つは、トニックコードは含まれず、もしくは多くのコードを使うことで、騒がしさを出しているからだ。コード進行の違いは、曲の雰囲気をガラリと変えることができる。古くからアメリカはシンプルな音楽を出し続けていて、日本は古くからメランコリックやノスタルジックな雰囲気の音楽を出し続けていた。特に理由も経緯もない、ただ各地域の人々が独自に発達した「音楽の耳」が異なってしまっただけで生じた違いだと思われる。

「メロディー」、「コード」ときたら、次はやはり「リズム」。邦楽では、マニービートや１６ノートグルーブなどのリズムが多用されている。これらはシンプルであることでよく使われている。一方、洋楽で主に使われるビートをみてみると、スウィンギーなビートが特徴的なジャズビートや、キャッチーなビートが特徴的なラテンビートがある。なぜこの違いが生じたのか？その理由は、前記で書いた、言語の違いにある。メロディーのリズムと同じように、外国語は自然にグルーブっぽいビートが生じ、それに伴いシンコペーションが強いリズムができたのだ。それに対し、日本語はよりきっちりしたビートを生み出したのだ。

次の違いは「楽器」である。洋楽は、特にシンセサイザーやシンセドラムなどを駆使した楽曲が多いのに対し、邦楽は今でもギター、ベース、ドラムのバンド形成の楽曲が多い。私は、アメリカ発祥のシンセサイザーだからこそ、洋楽で一番使われている楽器なのではないかと思う。それに対し、日本は琴や三味線などの伝統弦楽器の名残で、アナログな楽器を今でも使っている。

最後に比べたいのは、「ボーカル」である。古くから洋楽は、ゴスペルなどによくある低めでハスキーなパワフルボイスを好んでいた。成熟した雰囲気の声が、男女共に洋楽では求められる。それに対し邦楽は綺麗で高く、細い声が古くから好まれている。こちらも男女問わず、透明感のある声が求められるのだ。日本人は小さい骨格と声帯を持っていたため、細く高い声を出しやすいのに対し、アメリカ人は骨格と声帯が大きいため、パワフルボイスを出しやすいのである。さらに、文化的に日本人は「可愛い」を好む一方、アメリカ人は昔から「強い」を好む。各文化の好み「美しさ」の違いが、ボーカルの違いを導いたのではないだろうか。

洋楽と邦楽。個性豊かな二つのジャンルは様々な面で違う。しかし、結局は音楽なのである。どれほどリズムやメロディーや言語が違おうと、それぞれに違った魅力がある。どちらも存在しなければならない遺産なのである。音楽には説明しきれないところがある。なぜ人はトニックコードを好むのか、なぜ不協和音を嫌うのか。しかし、音楽は楽しまれるもの。違いがあっても、その違いを受け入れ、認め、その上で音楽を聴けるのならば、それで良

いのではないか。これを読んでいるあなたが、これからも音楽を好きでいられることを私は願っている。だって、「音を楽しむ」と書いて、「音楽」なのだから。

今を生きること

W校　高等部一年一組
是永　真凛

ああ、もうそんな時期なのだね。もう、卒業しちゃうのだね。

私は、そんなことを考えながら六月八日の兄の高校の卒業式を眺めていた。兄はガウンとキャップを被り、雨の中、卒業式に出ていた。二〇二一年も、もうすでに半分が過ぎている。今のこの時間は一生続くとみんなは思い込んでいるけど、本当はそんなことは全然ないのだ。私もこのことに、兄の卒業式が来るまで全く気がつかなかった。

兄は私よりも二歳年上だ。補習校では三学年、現地校では二学年違う。私と兄は仲良しだけど、お互いの最も深い秘密を知っているほどじゃない。そんなに喧嘩にもならないし、一緒に写真とかも取らない。でも、すごくいい兄だ。

兄は、この秋から、バイオリンパフォーマンスの専門で、大学に行く。私が覚えている限り、兄はいつもバイオリンを弾いていた。私が赤ちゃんの時から兄のバイオリンレッスンについて行って、三歳の時に「真凛ちゃんも。」と言い出して自分も始めた。あれから十三年経ったけど、私はまだバイオリンを続けている。これまでの、そしてこれからもずっと私たちは音楽が人生の大半を占めていくと思う。いつも緊張して手に汗をかいて弾いていた発表会、上手く弾けず結果が悪かったオーディション、勝ったコンペティション、間違えた音、様々な経験を積み重ねて、兄が今のようになったことを私は覚えている。きっと兄も、私のそう言う事を覚えているだろう。

今年、私は、ピアノのコンペティションに出た。コロナのため、ビデオで応募する形になっていた。このとき、父が日本にいたので、兄がレコーディングスタジオまでドライブしてくれて、私が終わるまで待ってくれた。私は曲を弾いていて、色々とミスをしていた。三十分くらいたっても、まだきちんとしたレコーディングができてなかった。苦労していると分かった兄は、部屋に入ってきて、「大丈夫だよ、少し休憩を取ったら。」と言ってくれた。この一言で、私はホッとして気分がよくなった。もういつまでも終わる気がしなかったレコーディングは、その日と次の日で、四つの曲をきちんと弾くことができた。コンペティションでは、二位を取ることができた。

八月の終わりには、兄はもういなくなってしまう。今年のクリスマスにはまた帰ってくるけど、兄の部屋のドアを開けたら、部屋のもう半分物無くなっているし、ベッドもきれいになっている。今まで一緒にいた兄の姿がいなくなることが、まだ実感できない。心の中に、ポカンと穴が空いたような、そんな気持ちだ。これまで生まれてから十五年間一緒にいて、一緒に笑い、一緒に怒られたり、たくさん遊んで、一緒に学校に行った記憶。いつまでもずっと一緒にいるような、そんな気がしてい

たのに、いつの間にか兄は自分の道を歩いていた。私は、今の場所に取り残されたような、そんな気がしている。でも私はそのことで悲しむのではなく、ここまで一緒に過ごした時間を大切にして、これからに生かしていきたいと思う。なぜなら、誰とでも、一緒に過ごす時間は限られているのだから。大切なのは今あるこの時間をきちんと過ごすことだと思う。兄と過ごした十五年間と別れで私が気づいたことは、今この時間を大切にすること。今いる友達とも家族とも、いつか離れてしまう日が来るはず。これからも人との出会いと過ごす時間を大切にしていきたいと思う。

自由

W校　中等部一年二組
五上　菜穂

今は、コロナウイルスの影響で世界各地の国がマスクや隔離や消毒などに気を使っているので、ウイルスのことを常に気にしていなくてはいけませんし、ソーシャルディスタンスで人との距離をとらなくてはなりません。好きなところに行くことも友達とも遊ぶことさえ難しいこんな状態に「自由」はあるのでしょうか。

最近はだんだんワクチン接種をしている人が増えてきて、コロナがなくなる未来が見え始めてきていますが、まだどうなるかは分からないので少し不安もあります。東京オリンピックも始まり無観客試合になってしまい、選手たちは複雑な気持ちになっていると思いますが、私もオリンピックが無観客だと考えると変な感じがします。それもコロナウイルスのせいだと思うとしょうがないのかなと怒ても何も言われません。アメリカではそういうのが自由だと思います。日本に一時帰国した今、日本の素晴らしさとその自由をとても感じています。

自由とは普通であることだと思います。自由とは普通に学校に行って普通に友だちと遊んで普通にご飯を食べて普通に一日を過ごすこと、誰も何も気にしなくていい普通の世界にいることだと思います。今まで日本にいた頃は普通のことに感謝をしてなかったと思います。でも、アメリカに引っ越しコロナウイルスの感染により普通の生活ができなくなりました。それは自由を奪われたということになります。もちろん生活に困難な人たちからは私達は贅沢に見えます。けれど普通に考えると今のご時世は普通ではありません。私達はもとの生活に戻るためにワクチン接種やマスクの着用、ソーシャルディスタンス、消毒、手洗いうがいなどをしっかりすることになっています。でも人間は頑張ればなんだってできりが湧き出ます。今自由がないわけではありません。学校も毎日行かせてもらえているし、友達とも学校でなら会えます。ですが、コロナがなかったころはそれらはふつうのことでした。

コロナだけではなく、アメリカに引っ越したことで自由を奪われたと感じたこともあります。アメリカでは小学生では一人で外を歩いて友だちと遊んだり出来ませんが、日本は幼稚園生でも一人で外へ歩いていっても平気です。一人で電車でもバスでも乗れます。国が違うことで話す言語も違うのでその言語の勉強も必要になります。そうすると自分の好きなことや友だちと遊ぶ時間が削られます。何を話しているのかもわからないし、慣れない環境で過ごすのはストレスが溜まります。ですが、アメリカにいて自由がないとは言いません。日本では学校に髪を染めていったりお化粧やアクセサリーをするのは禁止ですが、アメリカではそれら全て学校にしていっ

るんです。その気になれば宇宙にだって引っ越せます。なので「自由」や「普通」は自分たちで掴み取るんだと思います。これ以上新種のウイルスや感染者を出さないように感染対策をして自分たちでコロナを乗り越え、自分たちで頑張るしかないんです。

改めて普通というのは幸せなことなんだと思います。コロナのせいや環境、家庭の事情で普通に生活が出来ない人もいます。お金がたくさんあり毎日幸せな日々を送っている人もいます。でも、私は普通が一番だと思います。今、普通に生きていることに感謝したいと思いました。そして衣食住の生活を支えてくれている人たちに、日頃からありがとうを伝えることが大切です。

今までありがとうございます。そして、これからもよろしくお願いします。

予防接種などが少しずつ進んできています。このことから言えることは世界はコロナウイルスからの「自由」へと少しずつ進んでいると言えるのではないかと思っています。

もう一つ僕が挙げた「自由」という権利について説明します。「自由」という権利はすべての人が持っていて当たり前のものです。もし「自由」という権利がなかったら、自分で好きな職業につけなかったり住みたい地域に住めなかったりと不便なことが多いです。「自由」というのは日常にあふれており、人間には絶対に欠かせないものということを自分でこの文章を書いているうちにわかってきました。

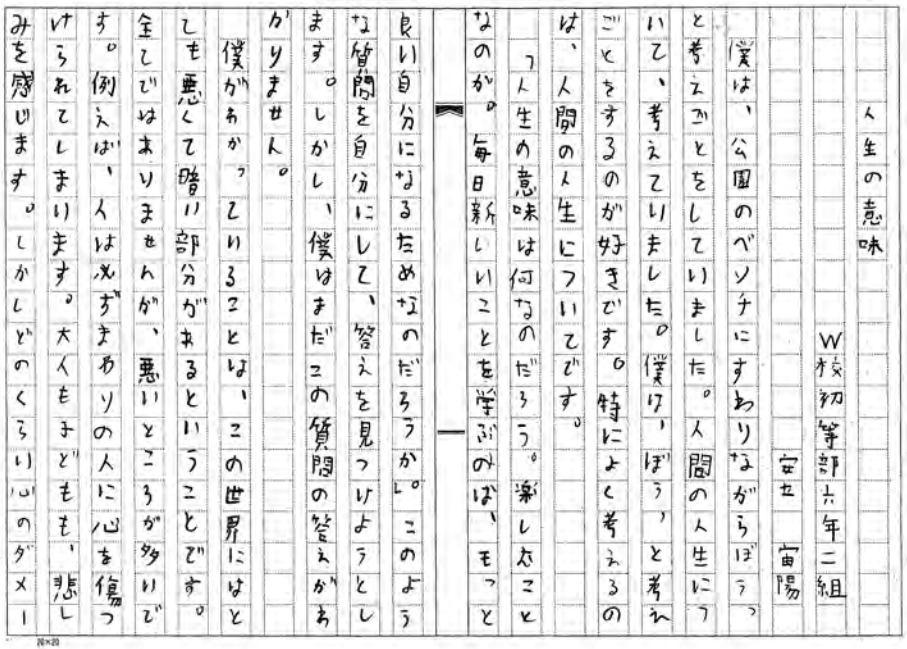
次に、具体的に日常にあふれている「自由」の大切さを説明します。例えば先ほどのように好きな職業につけなかったり、好きなところに住めなくなったりしてすべてをほかの人に決められてしまいます。つまり決定権をほかの人に握られてしまうことになるのです。

さらに「自由」のメリット・デメリットにつ

僕が思う「自由」とは人々が何か大変な事柄から解放されることだと思っています。人々が大変な事柄から解放、例えば今現在起こっているコロナウイルスのパンデミックや差別などいろいろな例が挙げられます。その他で僕が考える「自由」は自由研究という言葉にも使われるように自分の好きなことを選べる権利だと思っています。人間には好きなことを自分で決める「自由」という権利があります。僕はこの権利のおかげで毎日を楽しく平和に暮らせているのだと思っています。

最初に僕が触れたコロナウイルスのパンデミックからの「自由」について説明します。まずコロナウイルスのパンデミックにおいての「自由」とはコロナウイルスがなくなる、または予防接種が完了するということだと僕は考えています。今現在コロナウイルスに対するいても説明したいと思います。「自由」のメリットとは、先ほどにもあったように差別がなくなったり自分で決めたい事柄を決め、平和に暮らせるということだと考えています。もちろんメリットがある限りデメリットもあります。「自由」のデメリットとは、誰かが「自由」という権利を手にすると誰かがまた「自由」という権利を失う可能性があるということです。また誰かが差別から解放され、「自由」になっても他人の権利を尊重せずに行動すると、別の誰かが差別されるかもしれません。

さて、ここからは僕が「自由」を感じた時のことを話します。僕が「自由」を一番感じた時は、日本で自分の好きな部活サッカー部に入りたいといって家族が賛成してくれた時です。僕の父は野球が好きなので野球部に入ってと言われるかと思いましたが、サッカー部に賛成してくれた時がうれしかったです。今になってその経験があったからこそ「自由」は大切なんだなと実感しました。



人生の意味

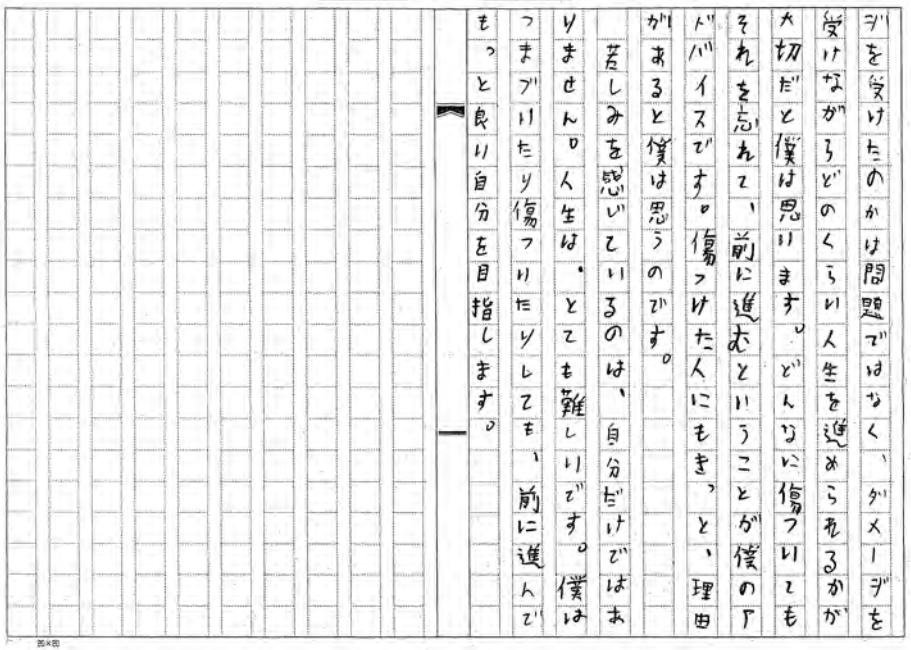
W校初等部六年二組

安土　宙陽

僕は、公園のベンチにすわりながらぼうっと考えごとをしていました。人間の人生について、考えていました。僕は、ぼうっと考えごとをするのが好きです。特によく考えるのは、人間の人生についてです。

人生の意味は何なのだろう。楽しむことなのか。毎日新しいことを学ぶのか、もっと良い自分になるための何なのだろうか。このような質問を自分にして、答えを見つけようとします。しかし、僕はまだこの質問の答えがかりません。

僕があかっていることは、この世界にはとても悪くて暗い部分があるということです。全てではありませんが、悪いところが多いです。例えば、人はかずまあその人に心を傷つけられてしまいます。大人もまどもも、悲しみを感じます。しかしどのくらいの少メー



ジを受けたのかは問題ではなく、かメージを受けながらどのくらい人生を進めるかが大切だと僕は思います。どんなに傷ついてもそれを忘れて、前に進むということが僕のアバイスです。傷つけた人にもきっと、理由があると僕は思うのです。

苦しみを感じているのは、自分だけではありません。人生は、とても難しいです。僕はつまづいたり傷ついたりしても、前に進んでもっと良い自分を目指します。

僕は家族に「自由」を実感したときについて聞きました。僕の母は一人暮らしを始めた時が一番「自由」を感じたと答えてくれました。これは何かからの解放なのかそれとも自分で決めた時の「自由」なのか考えましたが、母は祖母からの解放だと話してくれました。僕の二番目の弟は夏休みの宿題からの解放が一番「自由」を感じると答えてくれました。僕はそれに対して勉強が嫌いなだけだなと思いました。僕の一番下の弟は二番目の弟からの解放が一番「自由」を感じると答えてくれました。僕の父は「自由」を実感したときについて、教えてくれませんでしたが、代わりに「自由」には責任が伴うということを教えてくれました。その際、真ん中の弟を例にして話してくれました。夏休みの宿題をしないのは自由だが後から困るのは自分だと答えてくれました。考えて行動しろという意味だと思います。やらないのは自由である。しかし、それには責任が伴うと教えてくれました。人生において大切な話だなと思いながら聞いていました。僕は家族の話を聞いて世の中にはいろいろな「自由」があるんだなと思いました。そして、「自由」というのは責任が伴うという言葉が心に深く響きました。

僕はこの作文を書くことを機会に「自由」ということを学んだこと、そして、知らぬ間に「自由」について学べたことが分かってとてもうれしかったです。父からも「自由」という大切さや自由に伴う責任について教えてもらえたのも良かったです。これからも自分の「自由」を大切にして、そして他人の「自由」という権利を尊重して生きていきたいです。そして、みんなと平等な世界で過ごしたいです。

初めてのサマーキャンプ

W校　初等部五年一組
平川　斐子

この夏休み、私は初めてサマーキャンプに通いました。期間は五週間です。午前九時から午後十二時までオーケストラ（ジュニアストリングス）でビオラ。ランチの後、午後十二時半から三時半までダンス。場所は私の家から車で五分ほどの所にある中学校です。

行く前はやっぱりジュニアストリングスは簡単すぎるかなと思っていました。なぜならプライベートティーチャーは、私が通おうとしているクラスは簡単すぎると言っていたからです。ダンスは本格的に習ったことがないので、できるか不安でしたし、イヤだったら午後だけ一週間でやめるつもりでした。

オーケストラではコロナでずっと聴けていなかった、みんなで合わせた音を聴いてとても気持ちよかったです。スケールを弾いただけでも地ごくから天国に開放されたような気持でした。

ジュニアストリングスの生徒は約二十人いました。その中でビオラは七人いました。正直、みんな同じくらいの年なのに、大体の子はそこまで上手ではありませんでした。自分で言うのも変ですが、私って、上手なんだなと心の中でこっそり思いました。

毎週三曲習いました。私にとっては簡単な曲でしたが、よゆうをもって練習できたので、ジュニアストリングスでよかった、と思いました。楽しい曲ばかりだったので練習も楽しかったです。二週目の金曜日から毎週ユーチューブでライブ配信の発表会がありました。みんなで弾くことはきん張するし、こわい気持ちもあります。でも、とても心地よかったです。なぜなら、優しくて面白いみんなと一緒にいると思うと安心するし、いつも弾いている曲がもっと楽しく感じるからです。

ダンスはバレエ、ヒップホップ、ジャズ、コンテンポラリーを習いました。中でも私が好きなのはヒップホップです。バレエは少し習っただけです。ダンスのスタイルごとに先生がいました。生徒は九人しかいなかったので、びっくりしました。

踊る曲はヒップホップが一曲、ジャズが二曲、コンテンポラリーが一曲でした。昔の曲や今流行っている曲もありました。五週間かけてそれぞれの曲の振り付けを覚えました。

最初は不安な気持ちでいっぱいでしたが、習い始めたら、先生方のレッスンがそんな気持ちを吹き飛ばしてくれました。初日の帰り道で、私はダンスレッスンの出来事ばかり話していたそうです。家ではダンスの曲を探して、踊ったり、歌ったり、わくわくする毎日になりました。

最後の週の水曜日、リサイタルがありました。夕方の六時半にスタンバイして、七時から始まりました。校舎の前がぶ台でした。最初にダンスの発表、そのあとすぐオーケストラの演そうだったのでいそがしかったです。

ダンスではみんなきん張しすぎて、音が全く聞こえていなかったらしく、間ちがえていない人が、間ちがっているように見えるくらい、みんな速い動きをしていました。私も、二百人ほどの前で踊ったことは一度もないので、みんなにまきこまれそうになりました。特に、観客がリズムに合わせて一緒に拍手してくれたときは、一生分のよろこびを一気に感じているのではないか、とうたがうくらい楽しかったしうれしかったです。

オーケストラは個人的に一番きん張しました。理由は三つあります。一つ目は音がいつもとちがったことです。いつもは教室かステージで演そうしているので、外では音がひびかなくてびっくりしました。二つ目はペアがちがったことです。衣しょうを着がえてきたら、いつもはシニアストリングスのボランティアをやっている男の人がいました。自分の席を探していたら、その人の隣と言われたのでとてもきん張しました。いつもは、黒人の明るい

女の子のとなりなので、びっくりもしました。三つ目は先生の顔です。外で弾いたので、先生はマスクを取っていました。なので、知らない顔から聞き覚えがすごくある声が流れてきたのでまたびっくりしました。これらの理由で、私はおなかがいたくなりふるえるほどきん張したというわけです。

リサイタルは私の中では大成功でした。でも、リサイタルが終わったということは、サマーキャンプも終わるということです。私は先生や今回知り合ったお友達にとっても感しゃしています。私はサマーキャンプに通ってダンスのように新しく始めることもいいな、と思いました。オーケストラやダンスで教わったどんなに小さいことでも楽器を弾く時、踊る時に生かせたらいいと思います。私は来年もまたこのサマーキャンプに通いたいです。







かもしれません。

二つレて鉱物を集めて四か人で調べていると、白金や銀という元素があることを知りました。地球にあるすべてのものは、いろいろな元素の組み合わせからできていることを学び、とてもおどろきました。それからは、鉱物をはっくつしながら、元素もさまざまなところで採し始めました。元素は今までに世界で百十八個発見されています。そしてぼくは、そのすべての元素を集めようとしています。しかし、まだ十九個しか手に入れていません。今までに手に入れた元素のなにはタングステンやケイ素があります。タングステンは、

16×16

日本とアメリカの学校の違い

W校初等部三年二組

梶浦　瑶子

みなさんは、日本の学校とアメリカの学校のちがいは何だと思いますか。私は今年の四月に東京からニューヨークに引っこして来て、まず学校の様々なちがいにおどろきました。あまりにもびっくりすることが多かったので、そのちがいについて書くことにしました。

一番さい初にアメリカの学校に入った時、「あれ、ちがう！」と思ったことは、上ばきをはかなかったことです。私はその時、このままで大じょうぶかなと思いました。授業が

16×16

トンカチと二ッパーを使い、電球のなかから取り出しました。ケイ素は、がけにあった大きな岩をトンカチでたたき割り、取り出しました。また手に入れていません。ぼくが一番好きな元素は原子番号百十三番のニホニウムです。なぜなら、ニホニウムは日本人科学者が発見したからです。ぼくもいつか新しい元素を発見して、ジャパニウムという名前をつけたいです。

16×16

始まりました。今どは黒板におどろきました。なんと、黒板がコンピューターで出来ていたのです。日本ではぜっ対に外ばきのままでは学校の中を歩いたらいけないし、黒板もチョークで書く昔ながらのものでした。あまりのちがいに私はとてもおどろき、本当にこれでいいのだろうかと思い始めました。それで、日本とアメリカの学校のちがいを書き出してみることにしました

たとえば、しゅく題は日本の方が多くてアメリカは少ないです。日本はプールの授業があるのにアメリカにはありません。それから、日本にはおやつの時間がないのにアメリカ

16×16

の学校ではみんなでおやつを食べます。おべん当やきゅう食を日本では教室だけで食べますが、アメリカでは教室だけでなくカフェテリアやろう下など、様々な場所で食べます。しかも、日本ではぜっ対に有りえない、カフェテリアでランチを買うというっことが出来ます！

色々書き出してみて分かったことは、意外と同じところがないということです。日本は外ばきがきんしできれいずき、そして決まり事が多いですが、アメリカの学校は服そうもランチもとにかく自由です。日本とアメリカの学校はそれぞれやり方が全ぜんちがいますが、どちらもいい

16×16

学校の先生なのですが、もし本当に先生になれたら日本とアメリカのいいところを上手く使いたいです。そして、もし私が学校を作れるなら考えること・書くこと・きょう力すること・きれいにすることをバランスよく心がけたいです。みなさんもそれぞれの国の学校のちがいについて、ぜひ考えてみて下さい。

16×16

日本のお店大好き

W校初等部二年二組

パテル杉浦　有愛

六月になると日本りょ行が近づいて来るのでわくわくします。去年は、コロナのために行けなかったので、今年はいつもよりも、と楽しみでした。出発の何日も前からお買い物リストを作っていました。買いたい物がいっぱいあって、長いり

12×12

と私は思います。日本は「きりつ」を大切にしていて、アメリカは「自由」を大事にしていると感じました。自由であることは一見楽しそうに思えますが、実っさいにやってみると自分で考えることが多くてむずかしいと思うこともあります。「考えること」をアメリカの学校は大切にしているように思います。日本の学校でももちろん考えますが、決まっていることも多いため考えることよりおぼえることの方が多いと感じます。

私は小学生のうちに二つの国の学校に通えているので、両方のいいところを体けん出来てとてもうれしいです。実は私のしょう来のゆめは小

16×16

ストになりました。

日本の空こうについてすぐお母さんが、

「おなかすいた。食べたい物なる」。

と聞いたので、みんな声を合わせて、

「コンビ二の梅干しおにぎり」。

と言いました。ひさしぶりに食べるおにぎりは、おいしすぎて、すぐ終わってしまいました。

家に帰ると、さっそく買った物を広げてみました。

文ぼうぐは、大ちにスーツケースに入れました。ひさしぶりに日本に来たので、親せきやおばあちゃんのお友だちがたくさんおやつを

12×12

まいました。二こ買えばよかったな、と思いました。

コンビ二は、わたしの好きな物であふれているゆめの場所です。ごはん、おかし、アイス、のみもの、何でもあります。

おばあちゃんの家について、みんなで近くのシャオと言う場所に行きました。おかしと文ぼうぐをえらぶ時、あれもほしいこれもほ

12×12

待って会いに来てくれたので、おつりの数はどんどん、どんどんふえていきました。行く前に書いた買いたい物リストがどんどんみじかくなっていくのがうれしかったです。

わたしは、日本のお店が大すきです。だから、わたしがすんでいるアメリカにも、こんなお店があったら毎日行きたいです。

アートきょうしつ

Wこうーねん三くみ

いずみ　ゆいか

わたしは、なつやすみにサマーキャンプのアートきょうしつにいきました。ひっこしてきたばかりで、えいごがはなせないから、とてもドキドキしていました。

きょうしつにはいると、たくさんのさくひんがかざってありました。キャンプは、どうぶつがテーマでした。

つくるときに、せんせいがえいごではなしかけてくれたけど、よくわかりませんでした。でも、みほんをまねしていろをぬったり、せんせいにてつだってもらって、つくることができました。せんせいが、にほんごをいっしょうけんめいはなしてくれたときは、うれしかったです。

いろいろなどうぶつのえやおきものがたくさんつくれて、とてもたのしかったです。らいねんは、もっとえいごをべんきょうして、せんせいのことばがわかるようになって、またさんかしたいです。